

協育新聞

「協育」という波紋を拡げます

会報誌第56号

2025年1月5日発行

発行：NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネットワーク

新しい年を迎え 皆様のご健康とご多幸を

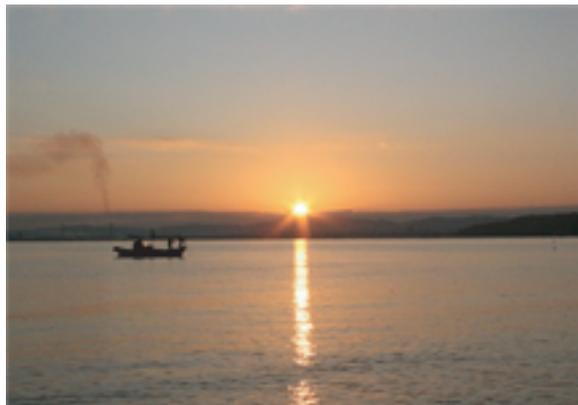
心からお祈り申し上げます

理事一同

令和6年の漢字1文字は「金」でした。オリンピックでの金メダルラッシュなどの素晴らしい出来事の半面、物価高(金)や政治の裏金(金)問題など世の中を愕然とさせられる出来事もあったことがこの漢字になったそうです。こうした「素晴らしいこと」と「愕然させられること」は毎年の繰り返しだと思いますが、会員の皆さんにとってはどんな「令和6年」でしたか。会員の皆さんがそれぞれの地域や組織で「協育」を基盤にして多くの方々と協力しながら素晴らしい活動をされておられることと思います。

NPO法人としての令和6年は、2月に梅園の里での第16回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会が60名を超える参加者の中で、教育の協働の方向性や、様々な活動の報告を交えながら多くの成果を挙げる事ができました。今年も2月22日(土)に第17回を開催します。また、懸案事項でした教育の協働を振り返る資料「大分県版 教育の協働(協育)のあゆみ『歴史があって今がある』」を作成することができました。大分県における教育の協働の始まりから、その必要性や全国事例を紹介しながら、NPO法人大分県協育アドバイザーネットワークの設立までをまとめてみました。

会員訪問では会報55号に掲載しましたように有田さんを訪問して「子どもたちの芋ほり」(私たちも..)を紹介しました。会報には、会員の方々の様々な活動を紹介するコーナーがありますので連絡していただければ訪問させていただきたいと思っています。会員の皆さんの今年の活躍を祈念しています。健康に留意して頑張りましょう。



＜令和6年元旦の別府湾を望む初日の出＞

＜2025年(R7年)＞ 第17回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会要項

本交流会は、「おおいた教育の日条例(H17年度施行)」の制定に賛同して、民間組織による実践交流会として県教育委員会や県内の組織・団体等からの「手弁当」で発表をいただきながら開催してきました。

近年、特に文部科学省及び県教育委員会においては、地域と学校との協働を進めるシステムづくりのために学校運営協議会制度(コミュニティスクール)の導入と、地域学校協働本部による地域学校協働活動を促進しており、本交流会においても「学校運営協議会制度」を中心に実施してきました。第17回大会はこれまでの交流会の成果と課題を整理して、学校運営への効果の視点から「学校運営協議会制度」について考えていくこととして本交流会を開催します。 **運営委員長(東国東地域デザイン会議会長) 林 浩昭**

テーマ 学校運営協議会制度の導入による「地域とともにある学校」づくりのための学校運営の効果を考える

共催 東国東地域デザイン会議／大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター／NPO法人大分県協育アドバイザーネットワーク

会場 「梅園の里」(国東市安岐町富清2244) ☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地☆

期日 令和7年(2025年)2月22日(土)

日程

■10:00 開会行事

■10:30～11:50 第1部 基調報告 テーマ:「歴史があって今がある」大分県版「教育の協働(協育)」への歩みを振りかえる

要旨:教育の協働への「歴史があって今がある」をテーマに、学校週5日制の導入から

地域学校協働活動までの様々な施策や事業を国の施策と全国の状況を交えて、大分県の取組みを振り返ってみます。

報告者:NPO法人大分県協育アドバイザーネットワーク 中川 忠宣 理事長

■12:50～15:55 第2部 校長がコミュニティスクールを語る(事例報告)

＜統一テーマ＞学校運営協議会制度による学校運営への効果について

＜事例報告者＞

①別府市立石垣小学校 勝河 馨 校長 ②中津市立本耶馬溪中学校 小川 邦夫 校長

③国東市立安岐中央小学校 徳丸 将 校長 ④臼杵市立臼杵南小学校 後藤 裕之 校長

■16:00～16:50 第3部 全体協議

テーマ:事例から「地域とともにある学校」づくりのための地域社会の出番を考える

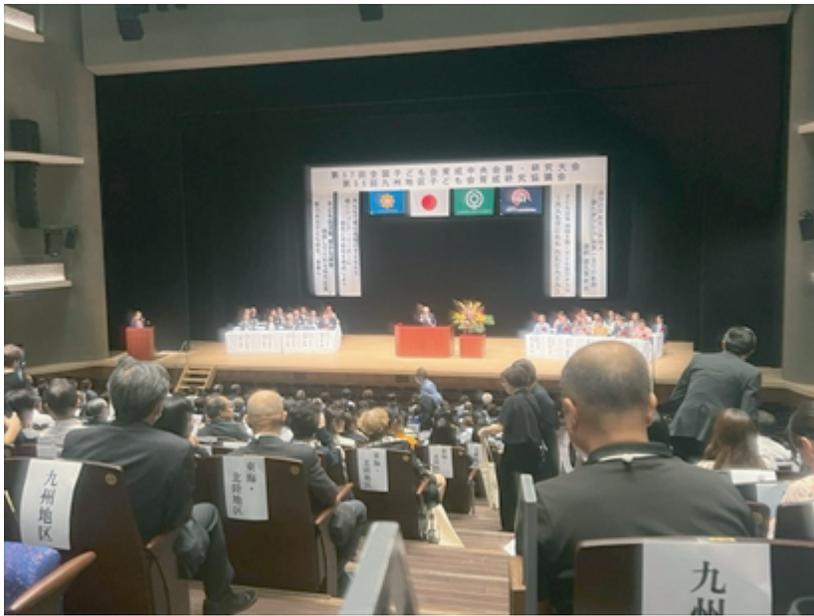
【コーディネーター】大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター岡田正彦 教授

■16:50～閉会行事 17:20～情報交換会



(申し込みQRコード)

第57回 全国子ども会育成中央会議・研究大会 第55回 九州地区子ども会育成研究協議会 参加報告



(発表する近藤嵯理さん)

私は今回、第57回全国子ども会育成中央会議・研究集会に参加してきました。子ども会員減少が進む中、いくつもの分科会に分かれて様々な視点から協議を行いました。私が参加した第4分科会では「未来へつなぐリーダー育成」というテーマで協議を行いました。参加して感じたことは、大きく分けて2点あります。1点目は、憧れの存在を作ることです。インリーダーである小学生は、日常生活の中で親、教師以外の大人と触れ合う機会は少ないと思います。なのでいかに、様々な子ども会活動の中で、大人とはまた違う中学生・高校生といった身近な存在と触れ合わせ、“自分もこんなお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたい”と思ってもらえるかがリーダー育成において大切だと思います。2点目は、育成者の心構えです。子ども会とは、「子どもの会」です。子どもたちがやりたいことをやらせたり、時に失敗してもどこまで育成者が口を出さずに見守るか、「見守り力」が大切だと思います。そして、「未来へつなぐリーダー育成」というテーマで話し合いましたが、一言で表すと「リーダーがリーダーを作る」この仕組みがこれからのリーダー育成の基盤だと考えました。

今回参加したことで、自分自身を振り返ることができました。人見知りだった私が子ども会に入り、ジュニアリーダーとして活動するようになったのも、憧れのリーダーがいたからです。憧れのリーダーのように自分もなりたいたいと感じた思いが、多くのことに挑戦するきっかけだったなと感じました。また挑戦する中で自信がつき、自分から沢山の人の関わり繋がりを作っていくことも出来ました。子ども会活動、そして自分の原点である少年の翼のような活動で学んだことは、学校では得ることのできないことばかりでした。

現在小学校教諭として日々子どもたちと過ごす中で、社会教育の大切さを感じています。学校、クラスというコミュニティ以外で、自分の居場所を作ったり、新しい繋がりを作ったりすることやボランティア活動を頑張ることで得られる学びや自信は、学校教育ではできないことです。これからの時代を生きる子どもたちにとって、知識ではなく生きる力を養うことができるように社会教育の重要性を理解しながら、これからも様々な挑戦をしていきたいです。(近藤 嵯理)

別府石垣小学校の七輪パーティー(11月27日(水))

別府市立石垣小学校の6年生の80名余りの児童が、保護者や地域の方々と一緒に、コンテナ3つ分の「紅はるか(甘太くん)」と「安納いも」を、20個の七輪を使って焼いて「むかしの生活体験」をしました。毎年の活動で、その他のイワシの目刺しやおもちも一緒に焼いて、楽しいひと時を過ごしました。今の子どもには七輪など無縁なものです。こうした活動が地域の方々との交流を深めていく機会になっているようです。(中川)



事務局よりお知らせ 会費納入のお願い

協育ネットの活動は皆様の会費で行っています。年会費の納入をお願いします。振込先は下記口座へ
郵貯 記号 17220 番号 4866821 (トクヒ)オオイタケンキョウイクアドバイザーネット

広報部よりお知らせ

協育ネット会員の皆様 2025年 あけましておめでとうございます。本年も広報部の活動に協力よろしくお願いたします。今年も皆様の活動の取材に行きたいと思っていますので取材依頼をお待ちしています。

